



》移住レポート

ご主人も奥様も学校の先生
繁村さんご家族

「移住の決め手は、
安心と便利さと、人の温かさ。」



宮崎県出身のご主人と八代市出身の奥様。お二人とも学校の先生で、特に農業が専門のご主人は、人吉、山鹿と県内の広い範囲で転勤を繰り返していました。「そろそろ子どもたちのためにどこかに拠点を決めたいと思っていました。妻の故郷に近いこと、最初熊本に赴任したとき八代市に住んでいたこと。当時このあたりの雰囲気の良い印象を持っていたこと。そんないくつかの理由で、思い切って移住を決めました。氷川町に来たのは今から7年前です。」とご主人。住まいのある宮原地域は完全登校班での登校で安心して子どもたちを学校に送り出せ、学校内に学童保育があるなど、共働きの夫婦にはとてもありがたい充実した子育て環境です。また、ご近所さんとの関係も良好で、地域間

のつながりが深いところもお気に入り。奥様も、「安心して外で子どもを遊ばせられるのはありがたい。地域のイベントも多く、色々なご家族と仲良くなれるのもいいですね」と話します。家族でドライブに行くときもスマートインターが近いのでどこにでも行きやすく本当に助かっているとご主人。また、子供たちは地域のスポーツ活動の拠点である『ひかわスポーツクラブ』に積極的に参加し、楽しく遊び、元気に体づくりを行っているとか。「氷川町は熊本県のほぼ真ん中にある、スマートインターやJR有佐駅が近いこと。九州新幹線の新八代駅へも車で20分で行けること。この利便性の良さも、移住先を氷川町に決めた要因の一つです。」と奥様は言います。

空き家バンク制度をご活用ください

空き家バンクでは、町内の賃貸・売却できる空き家を登録してもらい、その物件の情報を氷川町への移住を希望される方や住居をお探しの方へ提供しています。空き家バンク情報は氷川町のホームページでご確認ください。



氷川町 宮原振興局 総務振興課まちづくり推進係
〒869-4608 熊本県八代郡氷川町宮原栄久69-1
Tel 0965-62-2317 Fax 0965-62-4116
<http://www.hikawacyou.hinokuni-net.jp/ijuu/>

転入案内編

教科書の氷川町



子育てに最適、
心豊かに暮らせる氷川町への
移住についてお教えします。

どこへ行くにも便利な町

氷川町は熊本県の真ん中にあります。熊本県第二の都市八代市に隣接し、熊本市へは九州自動車道の宇城氷川スマートインターからわずか30分。九州新幹線の新八代駅へも車で20分という、どこへ行くにも便利な町です。



宇城氷川スマートインター
熊本県内初のスマートインターチェンジ。熊本インターまでは約30分で移動可能



JR有佐駅
氷川町最寄りのJR鹿児島本線の駅。熊本駅まで約25分、九州新幹線新八代駅まで6分



JR有佐駅前団地
JR有佐駅から徒歩5分という好立地にある戸建て住宅と集合住宅



八代北部地域医療センター
内科や外科などを擁する総合病院



電翔センター
風呂やサウナ、研修室、食堂、トレーニングルームなどが備わる体育施設



八火図書館
（株）電通から寄贈された図書館。平成27年度に移転新築。蔵書も豊富で、学習スペースもある



立神峡
夏は避暑地として利用され、バーベキューや水遊びなどを楽しめる。ログハウスやキャンプ場もある



電北公園
大きな遊具のほかステージやお祭り広場や散策路もある全世代型施設

氷川町の子育て支援施策

氷川町は子どもを育てるのにぴったりの町です。
子育てをしている家庭に、「子育ては楽しい」と思ってもらえるように、町全体で子育て世代を手厚くサポートしています。

- ◎ **児童医療費助成事業**
0歳から中学3年生までの子どもの医療費を全額補助する制度です。入院など特別な場合を除いて、児童医療費受給者証を医療機関の窓口に表示すると、窓口負担がありません。
- ◎ **母子保健推進員活動**
13人の母子保健推進員が町内各地域を担当しています。各種健診のお手伝いや子育て支援センターからのメール便の配布などを行い、地域で子育て支援の体制を作っています。
- ◎ **すこやか赤ちゃん出産祝い金**
町内に居住する保護者の方に赤ちゃんの誕生を祝い、祝い金を支給します。
- ◎ **子どもの健診**
国で定められている1歳6ヶ月、3歳児健診の他に、町独自で4ヶ月・7ヶ月・1歳児健診を行っています。
- ◎ **子育て支援センター**
未就園児の親子を対象に、子どもたちが楽しく遊ぶ場として、また保護者が情報交換を行う場として月曜日から金曜日まで開設しています。
- ◎ **待機児童ゼロ**
町内には、町立・私立の保育園や幼稚園が数多くあります。待機児童となることなく入園でき、仕事を持つ保護者の方も安心です。

◇コミュニティ・スクール

氷川町では、竜北西部小学校、竜北東小学校、宮原小学校、竜北中学校、氷川中学校の5校全てをコミュニティ・スクールに指定しています。

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える仕組みです。氷川町では、『ふるさとの大地に輝く氷川っ子』を目指す子ども像とし、『地域とともにある学校づくり』を進めています。読み聞かせ、花植え、毛筆指導、職場体験、味噌作りなど、地域の人たちによるボランティア支援は好評です。地域の大人たちが『先生』となり、一丸となって子どもたちを育てています。



◇ICT教育

いち早くICT(情報通信技術)を活用した教育を町内全校に導入。子どもたちの可能性を大きく広げる授業が行われています。

氷川町はICTを活用した教育への取り組みにいち早く着手。熊本県教育委員会より『未来の学校創造プロジェクト事業』の指定を受け、町内のすべての小中学校に電子黒板、タブレット、PCなどのICT機器を導入し、ICT支援員を配備しています。ICTを、一人ひとりが自分自身で考え、なぜそう思ったのか、その根拠は何かを人に説明し理解させることができるというコミュニケーション能力を身につけるツールの一つとして活用することにより、子どもたちはより積極的かつ自主的に授業に参加するようになりました。これからの社会を生き抜く子どもたちには、自分の考えやその根拠を表現できる力が必要です。その育成の可能性を大きく広げるICT教育に、氷川町は積極的に取り組んでいるのです。



子どもがすくすく育つ町

豊かな自然と共生する町

この町は子育てに手厚い町。教育にとっても熱心な町。コミュニティ・スクールなど地域が子どもを育てる気風があります。ICTのような最先端の教育にいち早く取り組む気風があります。

いろいろな作物が育つ肥沃な大地、迫力ある渓谷と清らかな川。歴史や文化を感じる町並み、そして広い海。この町には、暮らしも心も、ともに豊かにしていただける可能性が溢れています。

コンパクトタウン / 氷川町

コンパクトな町に生活に必要な施設が全て集まっていて、生活のしやすい町です。町の東側はなだらかな丘陵地帯、西部は八代海が広がっていて、山里の暮らし、海辺の暮らしなど様々な暮らしが凝縮されています。

氷川町は、熊本市から南に約30km、熊本県のほぼ中央に位置しています。熊本市内まで車で約1時間、町内に九州自動車道の宇城氷川スマートインターチェンジがあり、JRの駅や新幹線の発着駅まで車で30分以内。阿蘇くまもと空港まで約1時間と交通の便の良さが魅力です。南北に走る国道3号を境に、東部に山林、丘陵地帯、西部に八代海が広がります。熊本市や八代市のベッドタウンとして選ぶ方も多く、子育て世代の家族も多く住んでいます。氷川町には『地域で子どもを育てる』という文化があり、子育てを手厚くサポートしています。家庭・地域・学校が手をとりあいながら、町全体で子どもを育てているのです。

広大な農地を持った氷川町は農業が盛んです。温暖な気候と肥沃な土壌に恵まれ、いちご、トマト、い草、キャベツ、梨、晩白柚など多くの特産品が作られています。景勝地・立神峡は町を代表する観光地の一つです。自然と共生する里山の暮らしの中で育まれた伝統・文化や知恵を体験する学習が行われ、それを通じた交流拠点にもなっています。小さな町に昔から根付く、里山の暮らし、海辺の暮らし。コンパクトで豊かな暮らしを氷川町が叶えてくれます。

創業予定者・事業者への補助制度

氷川町では、地域経済対策として町内商工業の活性化を図るため、町内における空き地や空き店舗を利用して事業所を開設しようとしている方、またはすでに営業している方が事業所などを修繕、補修、改築、増築、新築の工事を行う場合、その経費の一部を補助します。また事業に必要な機械・器具などの購入への補助もあります。

新規就農総合支援事業

氷川町の豊かな農地を有効に活用していただくために、町内で新しく農業を始めたい方に対して開始資金補助や営農アドバイス、技術ノウハウの提供などを行う新規就農総合支援事業を実施しています。

◇体験交流の場 農業ツーリズム

自然豊かな氷川町ならではの農業・自然体験に加え、歴史や文化、人々とのふれあいを通して、「氷川町の良さ」を体験できるグリーンツーリズムです。

グリーンツーリズムとは、農山村で自然・文化にふれたり、土地の人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動のこと。平成18年4月に結成した『ひかわツーリズムクラブ』は、氷川町で働く農・商業など様々な職業の方が会員です。田植え、稲刈り、野菜の収穫などの農作業体験を通して、農業への理解と食の大切さを知ってもらうための食育も行っています。田舎ならではの遊びや昔ながらの生活体験、自然の中で行う川遊び・収穫の体験学習などが考案され、都市部から多くの方が足を運んでいます。自然・文化を体感できるツーリズムは、食への理解、心の豊かさを育むとともに、かけがえのない体験となるはず。



◇農作物交流拠点 道の駅「竜北」

国道3号沿いの道の駅「竜北」。物産館『ビストログリーン』には、地元農家から直送される農産物や特産品が揃います。

道の駅には、物産館、おやつ工房、農村レストランが備わっています。物産館には、地元農家が愛情たっぷり育てた新鮮な農産物が並びます。その旬の素材を使って、地元のお母さんたちがごはんを振る舞う『農村レストラン』も好評。地元客から観光客まで、館内は常にお客さんでにぎわっています。氷川町のアンテナスポットでもある同館は、地産地消にこだわった商品開発に積極的に取り組んでいます。ブランド野梨をふんだんに使った万能ダレやもち米で作る焼酎、晩白柚のスイーツなど、オリジナルの加工品を幅広く展開しているのも強みです。『おやつ工房』では、地元の果物やもち米で作ったおやつがたくさん。『農と食』の拠点施設となっていて、地域情報の発信、産業振興の拠点施設としての一翼を担っています。

